小学部研究

これまでの研究成果

国語、算数、図画工作の授業について取り上げ、Gごとに単元計画、評価規準を作成した。指導案を用いて授業ごとの振り返りを行い児童の学びの様子の共有、評価としての行動の見取りなどを話し合っていった。

↓

①単元のまとまりを意識でき、そのつながりについて教師が意識できるきっかけとなった。

②評価の段階を共有することにより教師間の児童の見方のずれがなくなった。

③授業者全員が個々の評価基準を共有することで指導体制の変化に対応でき、「いつもの指導」が展開できた。

↓

単元のねらいに準拠した授業づくりの大切さ、授業のねらいに即した記録の作成の重要性

研究テーマ

「児童一人一人の確かな学びの実現に向けて」

～指導計画の活用と授業改善～

今年度の研究にあたって・・・

・生活科などは指導内容が学習指導要領に記されているのに対し、図工、体育は題材の選定から単元計画を悩むことがある。

・「日常生活の指導」にて指導すべき内容、生活科の授業として指導する内容の整理を行いたい。

・自立活動の評価について、到達度が図りにくい。

・体育の授業について体の感覚的なところをどのように指導していくか、伝え方に悩むことがある。またどのくらい支援でできるようになるか、その支援の手立てについても児童の実態に即した手立てができているのか探っていきたい。

・小学部が行っている「集団国語算数」は低学年で基礎となる力を個別学習の中で育み、高学年になり集団授業で発揮できるように取り組んでいる。実施して3年目となり成果と課題も見えてきた。学部全体でその意義やあり方、身につけさせるべき力などを話し合う段階に来たのではないか？

研究目標

- （1）集団国語算数の授業において身につけさせたい力を検討、学部全体で共有し、児童一人一人の確かな学びへつなげていく。
- （2）児童の確かな学びに向けた単元計画、評価規準とその評価方法、内容の妥当性について検討を行い、授業改善へつなげる。
- （3）授業研究を通して、授業の質や教職員の授業力を向上させる。また、評価方法や評価規準を全体で検討し、考えていくことにより教職員の子供の学びの見取り方や指導力を向上させる。

研究経過

①国語算数の指導内容について、現在行っている学習を中心に整理、学部で共有を図った。

国語

	聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと	
小学部1段階	言葉による関わりの受け止め 言葉の存在への気付き 模倣　動作化（声まね、大まかな身振りなど）	書くことの意味付け（筆記用具を使い、かけることへの気付き） 運筆	イラスト、写真への気付き 写真やシンボル記号などの意味の理解 絵本読み	三項関係の成立 意図伝達行動の算出
小学部2段階	50音表 単語の構成 文章の構成	線結び なぞり書き 始点終点の理解 言葉とその対象物との一致（身近なもの、人の名前、感情、動き）	読み聞かせ 文字の拾い読み ひらがなを読む 清音	象徴機能の獲得
小学部3段階	感じたことや経験したことを話す 相手の話を受け止める 時間経過、手順に沿い、話をする。	文字の形に気を付けながら書く 見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見つけ、必要な事柄を想起して書く	促音、長音 読書 音読、劇	抽象的思考と情報処理能力の向上

算数

	数量の基礎・数と計算	測定	図形	データの活用	
小学部1段階	宝探し 1対1対応 3までの数の理解	基準に対し大きさや長さが同じか違うか区別する	形の違い、形に着目して区別する 同じもの同士の集合づくり		三項関係の成立 意図伝達行動の算出
小学部2段階	10までの数の理解 数のまとまり（5と端数） 数字で量を表す 数の合成分解	2つのものを比較できる、その方法の理解 長さ、高さ、重さ、広さ	形の分類（色、大きさ、材質が異なるものであっても形にのみ注目して分類する） 縦、横線、十字などをかく	数の多少、同等 簡単な図や表の理解	象徴機能の獲得
小学部3段階	20までの数の理解 合わせて、増えるといくつ 数のまとまり（10と端数） 残り、違いはいくつ 100までの数の大小	直接比較、間接比較 任意の単位での比較（いくつ分） 時間の単位、その関係の理解	身の回りの物の形を図形としてとらえる 前後左右、何番目、真ん中の理解 形作り	具体物をシール等の別のものに置き換え、数を数えて整理しながら多少をくらべる	抽象的思考と情報処理能力の向上

研究実践①

「集団国語算数」のねらい

個別学習で培った知識や技能を活用し、人との関わりを通して生活の中で生かせるように発展させたり身に付けたりする。」といったことがある。つまり個別の学習で行っている内容を集団で形を変えて行うことでこれまで培ってきた力を指導者や学習の場、教材や指導方法が変化しても確実に活用できることを目指す。

↓

すべての学習の基礎となる国語と算数の学習であるからこそ繰り返しあらゆる方法で学習することで確実な定着を図ることができる

↓

「確実な定着」とは「身に付けたことを生活や他教科の中で活かす」「身に付けたことを人との関わりの中で活かす」こと

↓

自立活動においても「人間関係の形成」「コミュニケーション」等について集団の中で学ぶことが可能であると考えられる。主障害が知的障害であり、他の障害を併せ有する児童については、同じ学習内容であれ、指導計画の中に位置づけ、適切なねらいに基づき活動している。

研究実践①

やまびこの小学部における「集団国語算数」の意義とは？

学部全体で話し合い共有した。

個別で行っている学習を集団で行う意味は？

「集団」とは？

金曜日の午後に設定しているが、その意味は？

そもそも身につけさせたい力は何か？

低学年と高学年を分ける意味？段階的な指導とは？

重複児童にとっての「集団」国語算数とは？

研究実践①

やまびこの小学部における「集団国語算数」の意義とは？

個別で培った力を集団の中で発揮できる力につなげたい

安心して力を発揮できる環境づくり

進学に向け、週終わりに心と体を整える時間としたい

新たな知識・技能を獲得していくというよりも個別で培った知識や技能を思考、表現、判断していきながら学習できるように

自立活動としての取り組み、いつもの仲間と少し違った「集団」の中で力を発揮できる力【コミュニケーション】【人間関係の形成】課題設定、ねらいは明確にしていくべき

低学年：対大人からの情報
高学年：大人を介さずに自分から情報を得ようとすることができる
CT,STの役割を明確にしておくこと、あくまで授業はCTがメインで情報を提供する。

研究実践②単元計画と評価

授業改善のための
教材準備・研究

次時のねらい・手立て
等の確認

実態把握・大切にしたいこと
評価規準を含めて計画を再考

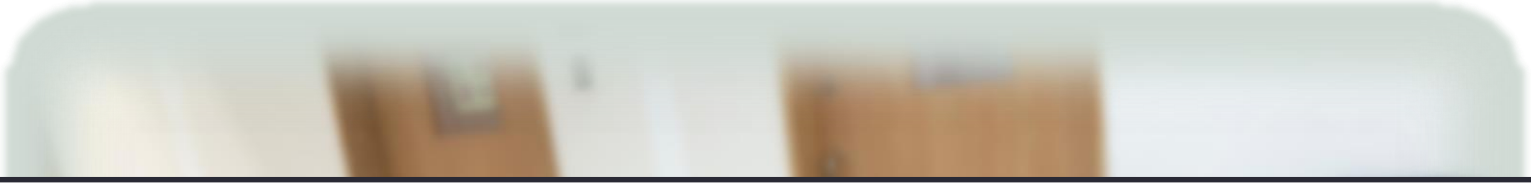
単元計画作成
（本校で活用されている
るシートや特総研等の
支援シートにて）

評価基準にもとづいて個々
の評価、その共有、内容の
妥当性について

指導案の記録、
Formsなど活用

授業実践

研究実践②集団国語算数１Gの取り組み

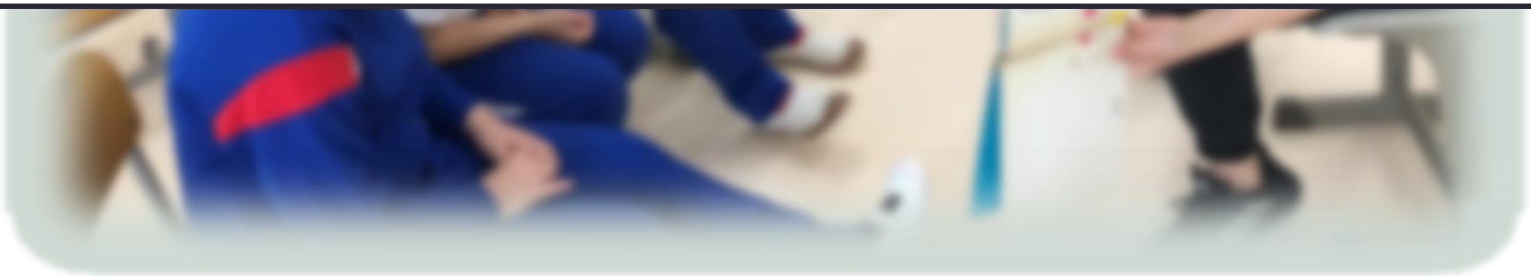


グループの概要

小学部4年生3名（男子3名）、5年生1名（男子1名）、6年生の1名（女子1名）の計5名のグループ

国語の学習の様子

身近なものの名前がおおむねわかって、50音も読むことができる。書くことは、鏡文字になったり、「●〇〇の●」と拾い読みしたり等、文字の読み書きに間違いが見られたりする。また、身近な言葉を読んだり、書いたりすることができる。名詞等のものは言葉から想起できている様子もあるが、動詞や文、形容詞等は想起できないものもあると思われる。絵本への関心はあり、友達と一緒に、全身を使って読むことが好きである。



研究実践②集団国語１Gの取り組み

国語「まちがいまちにようこそ」

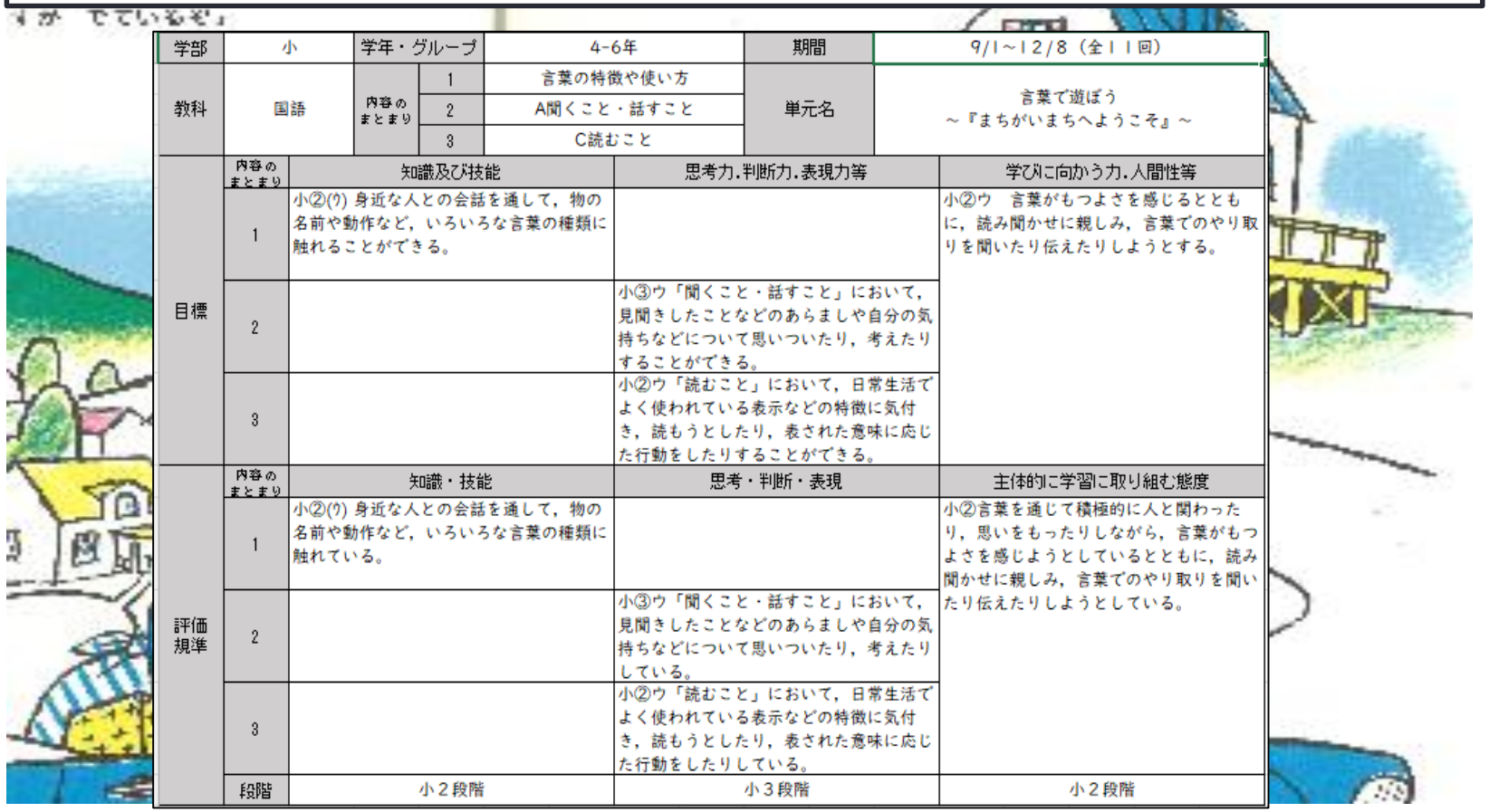
『まちがいまちにようこそ』は、ある家族が“まちがいまち”に引っ越すところから物語が始まる。まちがいまちには、様々な間違いがある。例えば、家の屋根に「えんとつ」ではなく「えんぴつ」が立っている等、様々なものが、一文字違うだけの違うものになってしまうという言葉遊びの要素を含んだユーモア溢れる内容である。

日常生活でも正解がわかっているけれど、「〇〇ではありません！」とわざと言ってやりとりを楽しむ様子が、『まちがいまちにようこそ』の“まちがい”を見つける学習につながるのではないかと考えた。そこから、「家にえんぴつなんて変なの！」と絵本に興味をもった上で「一文字変わると言葉が変わっちゃう！」という言葉遊びの要素を楽しめるのではないかと考えた。様々な言葉を知っている児童たちであるが、その言葉を構成している文字に着目して、言葉を用いること自体を楽しむ姿が期待できるのではないかと考え設定をした。

研究実践②集団国語１Gの取り組み

国語「まちがいまちにようこそ」

家の屋根に「えんとつ」ではなく「えんぴつ」が立っている等、様々なものが、一文字違うだけの違うものになってしまうという言葉遊びの要素を含んだユーモア溢れる内容である。
日常生活でも正解がわかっているけれど、「〇〇ではありません！」とわざと言ってやりとりを楽しむ様子が、『まちがいまちにようこそ』の“まちがい”を見つける学習につながるのではないかと考えた。そこから、「家にえんぴつなんて変なの！」と絵本に興味をもった上で「一文字変わると言葉が変わっちゃう！」という言葉遊びの要素を楽しめるのではないかと考えた。様々な言葉を知っている児童たちであるが、その言葉を構成している文字に着目して、言葉を用いること自体を楽しむ姿が期待できるのではないかと考え設定をした。



学部	小	学年・グループ		4-6年	期間	9/1～12/8（全11回）
教科	国語	内容のまとまり	1	言葉の特徴や使い方	単元名	言葉で遊ぼう ～『まちがいまちへようこそ』～
			2	A聞くこと・話すこと		
			3	C読むこと		

	内容のまとまり	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
目標	1	小②(ｳ) 身近な人との会話を通して，物の名前や動作など，いろいろな言葉の種類に触れることができる。		小②ウ　言葉がもつよさを感じるとともに，読み聞かせに親しみ，言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする。
	2		小③ウ「聞くこと・話すこと」において，見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思いついたり，考えたりすることができる。	
	3		小②ウ「読むこと」において，日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き，読もうとしたり，表された意味に応じた行動をしたりすることができる。	

	内容のまとまり	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	1	小②(ｳ) 身近な人との会話を通して，物の名前や動作など，いろいろな言葉の種類に触れている。		小②言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いをもったりしながら，言葉がもつよさを感じようとしているとともに，読み聞かせに親しみ，言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとしている。
	2		小③ウ「聞くこと・話すこと」において，見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思いついたり，考えたりしている。	
	3		小②ウ「読むこと」において，日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き，読もうとしたり，表された意味に応じた行動をしたりしている。	
	段階	小２段階	小３段階	小２段階

研究実践②集団国語１Gの取り組み

＜評価について＞

学習評価　（ルーブリック評価を用いた妥当性の検討）

全８時間のうち、前半４時間を終えての評価についての話し合いのまとめ

	言葉の特徴や使い方	◎	○	△	個人内評価
知識及び技能	小②(ｳ) 身近な人との会話を通して，物の名前や動作[illegible]いろな言葉の種[illegible]る。	言葉の違いを読み聞かせから気付き、絵本のシーンにでてくるものの名前や動作に[illegible]て多くの言葉[illegible]	言葉に違いを挿絵から気付き、絵本のシーンにでてくるものの名前や動作についていくつか言葉を	言葉に違いを教師や友達との関やりとりから気付き、絵本のシーンにでてくるものの名前や動作について、注目はしている[illegible]をしている。	
思考力,判断力、表現力					
主体的に学習に取り組む態度	小②言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いをもったりしながら，言葉がもつよさを感じようとしているとともに，読み聞かせに親しみ，言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとしている。	単語を構成する文字が変わることで、その意味が変わることに気づける。 ※まとめのプリントで評価可能？	単語と挿絵の違いに気づき、文字を訂正できる。	文字を使って挿絵の単語を構成できる。	

問われていることが分かり、自分なりの表現で表している

C児：読み聞かせから想起し発言している

A児：挿絵を見て物の名前等をの言葉にしている

D児：イラストから想起するよりも正解は何なのかを求めている様子

自由に思い描くことが難しく、正解を導くことで納得じようとしているのか

A児：挿絵を基に未学習の文字であっても単語を構成するために選択できている

CD児：「○ま」の提示から「やま」と呟き、思考している様子あり

集団で学ぶことによって刺激を受け、友達と一緒に考えている様子が見られる

研究実践②集団国語１Gの取り組み

	A聞くこと・話すこと	◎	○	△	
知識及び技能					
思考力,判断力、表現力	小③ウ「聞くこと・話すこと」において，見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思いついたり，考えたりしている。	絵本全体における見聞きしたことについて思いついたり，考えたりして~~いる。~~、まちがいを探している。 ※間違いを探している	絵本のシーンにおける、見聞きしたことについて思いついたり，考えたりして~~いる。~~、まちがいを探している。	絵本のシーンについて、教師が発問することに対して思いついたり，考えたりして~~いる。~~、まちがいを探している。	
主体的に学習に取り組む態度	小②言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いをもったりしながら，言葉がもつよさを感じようとしているとともに，読み聞かせに親しみ，言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとしている。	絵本の読み聞かせに親しみ、絵本のシーンについて教師や友だちとことばでのやりとりを聞いたり伝えたりしている。	絵本の読み聞かせに親しみ、絵本のシーンについて教師とことばでのやりとりを聞いたり伝えたりしている。	絵本の読み聞かせに親しみ、絵本のシーンに登場することばや挿絵に注目している。	

研究実践②集団国語１Gの取り組み

	C読む	◎	○	△	
識及び技能					
考力,判断力、表現力	小②ウ「読むこと」において，日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き，読もうとしたり，表された意味に応じた行動をしたりしている。	絵本の読み聞かせから、内容を想像して読み、場面に応じた表現をしている。~~シーンに記されている内容を読もうとしたり、シーンに応じた行動をとろうとしたりしている。~~（児童それぞれの読み方がると想定しておく。声に出して文や言葉を読むことだけが、読むことではないのでは）	絵本の内容を、挿絵や知っている文字・言葉から読み取り、場面に応じた表現をしている。~~シーンに記されている内容について、シーンに応じた行動をとろうとしている。~~	絵本の内容を、見て読もうとしている。~~シーンに記されている内容を読もうとしている。~~（絵本に気持ちを向けている的な意味）	
主体的に学習に取り組む態度	小②言葉を通じて積極的に人と関わったり，思いをもったりしながら，言葉がもつよさを感じようとしているとともに，読み聞かせに親しみ，言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとしている。	言葉遊びの面白さを感じながら、絵本に興味を持って読んだり聞こうとしたりしている。 ※言葉遊びの面白さ＝一文字変わると言葉が変わること	言葉遊びの面白さを感じながら、絵本のシーンに興味を持って読んだり聞こうとしたりしている。 （絵本の一部）	絵本のシーンに興味を持って聞こうとしている。 （絵本の一部）	

C児:「やまがまわる」と呟き情景を思い浮かべたのか笑っている

D児:情景の面白さは何となくつかんでいるか？

どこまでつかめているかは今後も丁寧に見取っていく必要がある

一文字違うと単語の意味合いが変わる面白みが分かっている

ACD児:自ら製作した絵本を読み返している

B児:鼻血が噴き出すイラストを見て同じように体を動かして表現し、笑っている

一文字違うと単語の意味合いが変わるということよりも、イラストから様子の面白さを感じている様子

いもほり
↓
いぬほり

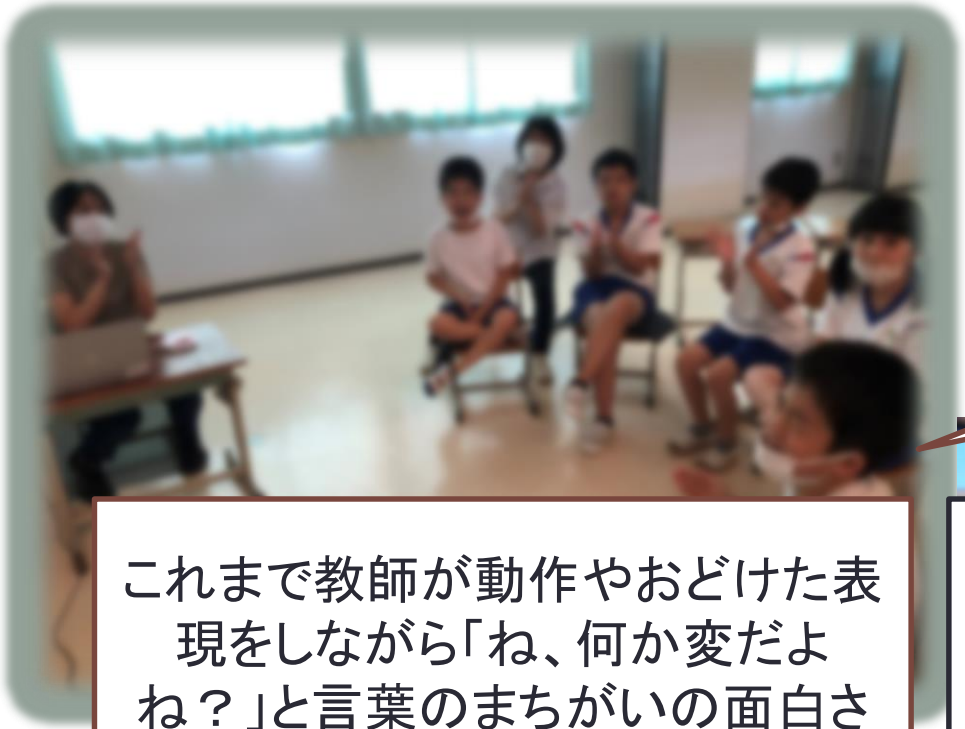
単語の一文字が変わると別の言葉になることの面白さを感じ、言葉遊びができる。

教師からの問いに答えるべきことは理解しているが…

2グループの小集団での
よりねらいをしぼった学習へ

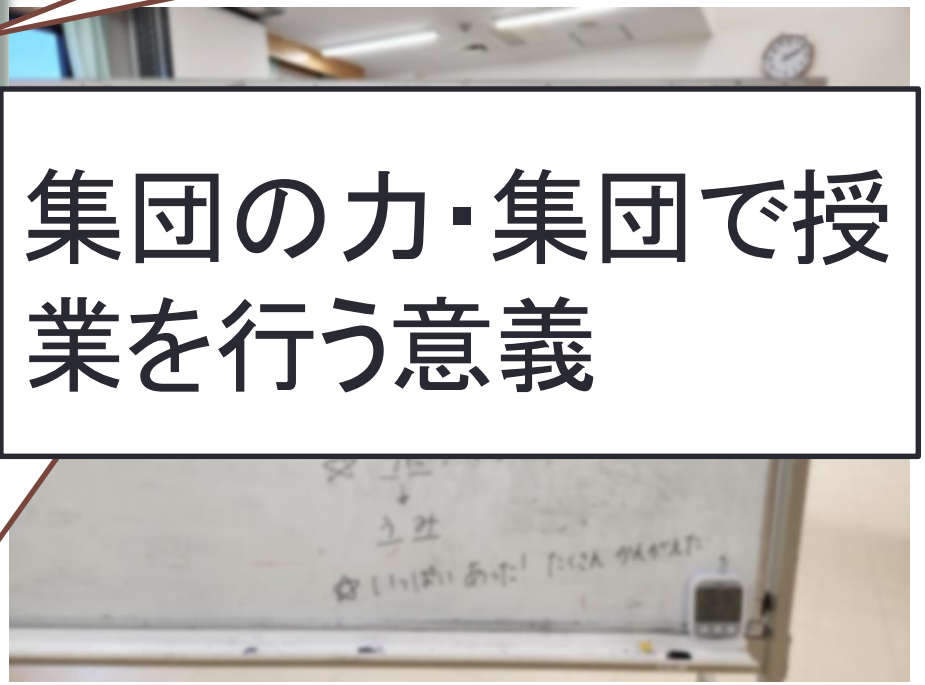
	A･C･E児グループ	B･D児グループ
指導内容	・これまでの学習の続きから、様々なまちがい言葉を作る。	・「い○をほる」という文ではなく、「い○」という単語を考えることに絞って発問する。難しい場合は、ヒントとなるイラストを提示したり、教師が例示を示したりする。 ・単語が出揃ったら「をほる」という動詞を付け加え、正しい言葉は○、まちがい言葉は×と記していく。
児童の様子	・「まちがいまち」の意図を感じながら思いついた言葉を発言しあっている。 ・自分が作った言葉のみならず、友達が作ったまちがい言葉に対しても決まり文句を通してやり取りをしたり、笑いあったりしている。	・正しい「いも」という言葉はすぐに出てきた。その後教師とやり取りをする中で、いくつかのまちがい単語が出てきた。 ・B児はヒントのイラストを見たがっていた。自分から考えるよりもヒントから正解（求められていること）を導き出したい様子が見られた。 ・D児は学習の意図を感じながらいくつか○に入る文字を考え出していた。 ・二人に共通して単語に動詞を結び付けてそれを○と×に分けることはおおむねできていたが、その結果について自ら「まちがい！まちがい！」と言ったり、面白さを感じている表情が見られたりすることはあまり見られなかった。

2Gに分けた結果…



それぞれの実態や課題に沿った児童同士のやり取りや、児童にとって考えやすいであろう方法を工夫することで少しずつ授業のねらいに迫ることができた。

これまで教師が動作やおどけた表現をしながら「ね、何か変だよね？」と言葉のまちがいの面白さを児童に訴えてきたときにはあまり反応が見られなかったが、子供たち同士が盛り上がり、笑いあう環境の中ではB児D児の表情にも変化が見られる様子がみられた。



集団の力・集団で授業を行う意義

まとめ

学習評価の妥当性を高めるため

・単元計画表の評価計画により評価の観点における評価を実施する。
・内容のまとまりの目標から、必要に応じて単元での目標を設定する。
・目標（単元の目標を含む）より評価基準を作成する。評価規準は、客観的に評価できるように具体的な行動をもって評価できるようにする。
・評価する際は（ルーブリック、パフォーマンス、エピソード記録　自己評価）等の資料をもとに評価の根拠を確認しながら評価していく。評価日までに、全体の評価規準にそぐわない場合は、評価規準の再設定を行う。（実態把握が実際に異なっていた場合などが想定される）
・評価しながら、話し合いに出た内容や授業での様子を、個別の指導計画の今後の課題等に記載していく。
・評価は単元計画表の評価計画に基づく評価日、評価会議日に実施する。

→授業評価をあわせて行うことにより授業を重ねるごとに、授業構成が明確になり教材や支援の内容を簡潔に打ち合わせることができるようになってきた。授業を評価することで次回への指導へとつながりがもてる。

授業評価の視点

①実態把握の重要性

実態把握が不十分であると評価規準を再考する必要があることに留意する！

②授業記録の方法

授業のスタイルに合わせて、必要な方法でより整理された記録を！

③評価規準の設定

具体的な行動を評価規準に取り入れる！

④他授業との連携

他授業の評価規準を参考にしていくことも有効である。
また、授業間で行動の様子などを伝えあうことも必要である。また、授業の目標により、有効な学習グループを再検討する。

　授業にかかわった教師が児童の様子を多面的にとらえ、それを共有し、広い視野で児童の見取り方の幅を広げることがより妥当性の高い評価につながる

授業を行いながら細かな軌道修正を行い、指導方法の工夫、必要に応じて小グループや個別の対応などが必要な場面が出てくる。そのようなときには児童に合う方法を関わる教師同士が話し合う中で、柔軟に変化させること

書くことで考えがまとまることや一覧で様々な視点や考えを見渡せる良さがあり、観点を絞った考え方につなげられる利点がある。

動画を活用しながらの教師間のやり取り、他の授業や日常生活での様子やその児童のものの考え方などについて多くの教師からの多角的な見取りや考えを共有し、一つの方向に向けて授業づくりを行い、児童の実態を的確に把握することにつなげることもまた重要である

新しいものを取り入れつつ、いつも児童を中心に置いた授業を展開することを忘れずに、チームで授業づくりをすること